

ソフトウェアモデル論(2013年度)
第13回・2013/12/21

桑原 寛明
情報理工学部 情報システム学科

モデル検査 (復習)

- 状態遷移系として記述されたシステムが、論理式として記述された性質を満たすか否か、網羅的かつ機械的に検証する手法
- 利点
 - 網羅的、機械的、反例
- 例えば、プログラムが必ず停止すること、デッドロックしないこと、などを検証できる

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 2

モデル検査の手順 (復習)

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 3

Kripke構造の定義 (復習)

- Kripke構造 $M = (S, R, L)$
 - S : 状態の有限集合
 - R : 遷移関係
 - $R \subseteq S \times S$
 - $R(s, s')$: 状態 s から s' への遷移がある
 - すべての状態が遷移先を持つ
 - L : ラベル付け関数
 - $L: S \rightarrow 2^{PV}$
 - PV は命題変数の集合
 - 各状態にその状態で真となる命題を表す命題変数を割り当てる関数

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 4

経路 (復習)

- 遷移関係に従って移り変わる状態の列
- $\sigma = s_0s_1s_2\dots$
 - すべての $i \geq 0$ に対して $R(s_i, s_{i+1})$
 - i 番目の状態 $\sigma(i)$
- 関係 $R(s, s')$ を「システムの状態が s であれば、次の時刻で状態が s' に変わる」と理解すればよい

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 5

Kripke構造の例 (復習)

- $COPY = (S, R, L)$
 - $L(s_0) = \emptyset, L(s_1) = L(s_3) = \{p\}, L(s_2) = \{p, q\}$
 - p : スキャナをロック
 - q : プリンタをロック

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 6

Kripke構造の例 (復習)

```

1: n = 3; fact = 1;
2: while (n > 1) {
3:   fact *= n;
4:   n--;
5: }
6: print(fact);
    
```

l_i : i行目を実行
 n_i : $n == i$
状態は行番号

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 7

Kripke構造の例 (復習)

```

1: n = 3; fact = 1;
2: while (n > 1) {
3:   fact *= n;
4:   n--;
5: }
6: print(fact);
    
```

l_i : i行目を実行
 f_i : $fact == i$
状態は行番号と変数 n の値の組

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 8

時相論理 (復習)

- 命題論理は、ある瞬間の状況に関する命題のみ扱える
 - 前後(過去、未来)の状況との関連は扱えない
- 扱えるように拡張したものが時相論理
 - 「いつか停止する」
 - 「x の値は**ずっと**正である」など

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 9

時間のとらえ方 (復習)

- 離散 vs 連続
 - 離散: 単位時間を仮定
 - 連続: 任意の2時刻間に別の時刻の存在を仮定
- 点 vs 区間
- 未来 vs 過去
- 分岐 vs 線形
 - 分岐: 時間の流れによる状態変化のすべての可能性を同時に考慮
 - 線形: 一つの可能性のみを選択

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 10

CTL(計算木論理) (復習)

- 離散、点、未来、分岐
- 計算木に対する論理
 - 計算木は、ある状態を開始状態とするすべての経路を1つにまとめた木構造
 - 開始状態が木構造の根
- 経路の選択
 - すべての経路において、ある経路において
- タイミングの選択
 - 次、将来のいつか、今後ずっと、ある時点まで

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 11

計算木 (復習)

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 12

CTLの論理式

1. 命題変数は状態式
2. P, Q が状態式ならば $\neg P, P \wedge Q, P \vee Q, P \rightarrow Q$ は状態式
3. P が経路式ならば $A P, E P$ は状態式
4. P, Q が状態式ならば $X P, F P, G P, P U Q$ は経路式
5. 以上が状態式と経路式のすべてであり、状態式がCTLの論理式のすべて

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 13

CTLの意味論

- $M, s \models P$
 - Kripke構造 $M = (S, R, L)$ における状態 $s \in S$ を開始状態とする計算木においてCTL式 P が成り立つ
- PV は命題変数の集合であり $p \in PV$

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 14

CTLの意味論

- $M, s \models p$
 - $p \in L(s)$
- $M, s \models \neg P$
 - $M, s \models P$ でない
- $M, s \models P \wedge Q$
 - $M, s \models P$ かつ $M, s \models Q$
- $M, s \models P \vee Q$
 - $M, s \models P$ または $M, s \models Q$
- $M, s \models P \rightarrow Q$
 - $M, s \models P$ ならば $M, s \models Q$

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 15

CTLの意味論

- $M, s \models AX P$
 - $\sigma(0)=s$ なるすべての経路 σ において $M, \sigma(1) \models P$
- $M, s \models EX P$
 - $\sigma(0)=s$ かつ $M, \sigma(1) \models P$ なる経路 σ が存在する
- $M, s \models AF P$
 - $\sigma(0)=s$ なるすべての経路 σ においてある $i \geq 0$ が存在して $M, \sigma(i) \models P$
- $M, s \models EF P$
 - $\sigma(0)=s$ かつ $M, \sigma(i) \models P$ なる $i \geq 0$ が存在する経路 σ が存在する

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 16

CTLの意味論

- $M, s \models AG P$
 - $\sigma(0)=s$ なるすべての経路 σ において任意の $i \geq 0$ に対して $M, \sigma(i) \models P$
- $M, s \models EG P$
 - $\sigma(0)=s$ かつ任意の $i \geq 0$ に対して $M, \sigma(i) \models P$ なる経路 σ が存在する
- $M, s \models A [P U Q]$
 - $\sigma(0)=s$ なるすべての経路 σ においてある $j \geq 0$ が存在して $M, \sigma(j) \models Q$ かつ $0 \leq i < j$ に対して $M, \sigma(i) \models P$
- $M, s \models E [P U Q]$
 - $\sigma(0)=s$ かつ、ある $j \geq 0$ が存在して $M, \sigma(j) \models Q$ かつ $0 \leq i < j$ に対して $M, \sigma(i) \models P$ なる経路 σ が存在する

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 17

CTLの意味論

ソフトウェアモデル論(2013/12/21) 18

経路演算子、時相演算子

- $\neg AX P = EX \neg P$
- $\neg AF P = EG \neg P$
- $\neg AG P = EF \neg P$

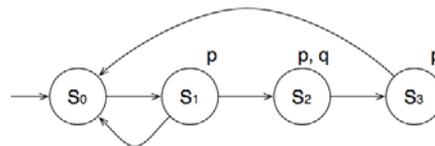
- **EX, EG, EU** があれば他の演算子は表現可能
 - $EF P = E[T U P]$ T は恒真(任意の状態で真)
 - $A[P U Q] = \neg(EG \neg Q \vee E[\neg Q U (\neg P \wedge \neg Q)])$
 - **EX, EG, EU** の組み合わせに限らない

ソフトウェアモデル論(2013/12/21)

19

例

- COPY, $s_0 \models EF(p \wedge q)$
 - p, q がともに成り立つ状態に到達できる経路がある
- COPY, $s_0 \models \neg AF(p \wedge q)$
 - すべての経路で p, q がともに成り立つ状態に到達できるわけではない



ソフトウェアモデル論(2013/12/21)

20